

先端研究基盤共用促進事業（コアファシリティ構築支援プログラム）

中間評価結果

機関名	信州大学
事業概要	ファシリティマネジメント委員会による戦略的な機器導入・管理体制の確立と、テクニカルマネジメントセンターによる高度技術職員育成プログラムを整備し、学内へ広く波及するとともに、産学官連携の高度化を成すことにより、外部資金によるコアファシリティの自立化を目指す。
評定（総合評価）	コメント
A	<ul style="list-style-type: none"> ・設備共用のインセンティブ制度や、モチベーションの高い技術職員に対して自主的活動を通じて育成するファンドの整備など、大胆かつ斬新な取組を進めている。 ・信州地区でのコアファシリティ化事業は地方創生の一役も担い、他地区も参考になると考える。今後は本取組を信州以外へ発展させることが期待される。 ・学長が自ら指導力を発揮する学長名の方針策定が高く評価できる。 ・民間連携による機器利用料の更なる増加に向けた取組に期待する。
評定（個別評価）	
① 進捗状況	コメント
S	<ul style="list-style-type: none"> ・事業運営のための組織整備が迅速に行われ、技術職員の一元化や設備共用の活性化に資する様々な施策がいち早く打たれている。 ・機器共用促進による各種施策が功を奏し、共用機器利用件数、論文数などが全体的に向上している。最終ゴールを明示されると更に良い。
② 経営戦略	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の近未来 VISION に則り、経営層の強力なリーダーシップの下、機器マネジメント体制改善に向けて全学的に取り組んでいる。 ・大学自己経費で新規技術職員を4名雇用するなど、適切な投資もなされている。 ・ファシリティマネジメント部会、コアファシリティ推進室が IR 室等と連携する体制が構築され、戦略的な経営戦略が策定されていると判断される。 ・民間からの資金導入が増え、期待が持てる。
③ 実施体制・仕組み	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・統括部局を中心とし、担当理事の総括の下、財務や人事担当等各部署と連携できている。 ・機器共用基本方針が策定され、本事業の運営に必要な基盤が着実に構築されている。設備共用を教員の業績評価の加点要素とする、先行投資制度や重複機器のチェック体制の整備など、大胆な施策が試みられている。 ・民間企業との取組は弱い印象を受けた。

④ 人材育成	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・技術職員人材育成方針を策定し、新たな職階の制定、モチベーションが高くアイデアのある技術職員を伸ばすファンディングの導入など、キャリア育成・スキルアップのための施策が整備され、管理職コースへのキャリアパスも含めたダイナミックな改革が行われている。 ・人材育成強化のスピードアップを期待する。
⑤ 資金計画	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・機器利用料収入が目標値 50%増を上回る 105%増に進捗し、予算積立など資金計画についての取組も進んでいる。人材継続雇用の見通しも立っている。 ・利用料収入の更なる増加を期待する。特に民間企業の利用が少なく、それらを積極的に増やしていく戦略の検討が望まれる。
⑥ その他の政策との連携	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリティマネジメント部会の設置をはじめ、IR 室等と連携し、地域戦略や大学戦略を反映した機器導入の仕組みを構築している。機器共用インセンティブの導入など、教員への共用文化の定着・醸成にも努めている。 ・「地域中核・特色ある研究大学」事業や長野県との連携が今後期待される。 ・外部資金導入に繋がるようなイノベーション創出、産業界や国際社会との連携の具体化が課題である。
⑦ 外部連携、国際化	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・信州共用機器ネットワーク SHINE の構築は高く評価できる。今後の更なる効果的運用に期待したい。 ・留学生向けの予約システムや共用装置マニュアルの英語化は評価できる。 ・県境・国境を越えた取組や発展、より国際的な組織連携に期待したい。 ・ネットワーク構築が生み出すアウトカムについて深掘りを期待したい。
備考	なし